

# 実験レポートの書き方

---

松吉 俊

# レポートを作成するときは

---

- ❖ 必ず、＜サンプルレポート＞を参照する
  - ❖ 一般的な注意事項
  - ❖ レポートの構成・章立て
  - ❖ それぞれの章の書き方・注意事項
  - ❖ これ自身がレポートのサンプル
- ❖ 1冊くらい、「レポートの書き方」や「文章表現」に関する本を読んでみる
  - ❖ 事実と意見の書き分け方
  - ❖ 論理的な文章の書き方
  - ❖ 読み手が納得しやすい文章の書き方

# 一般的な注意事項

---

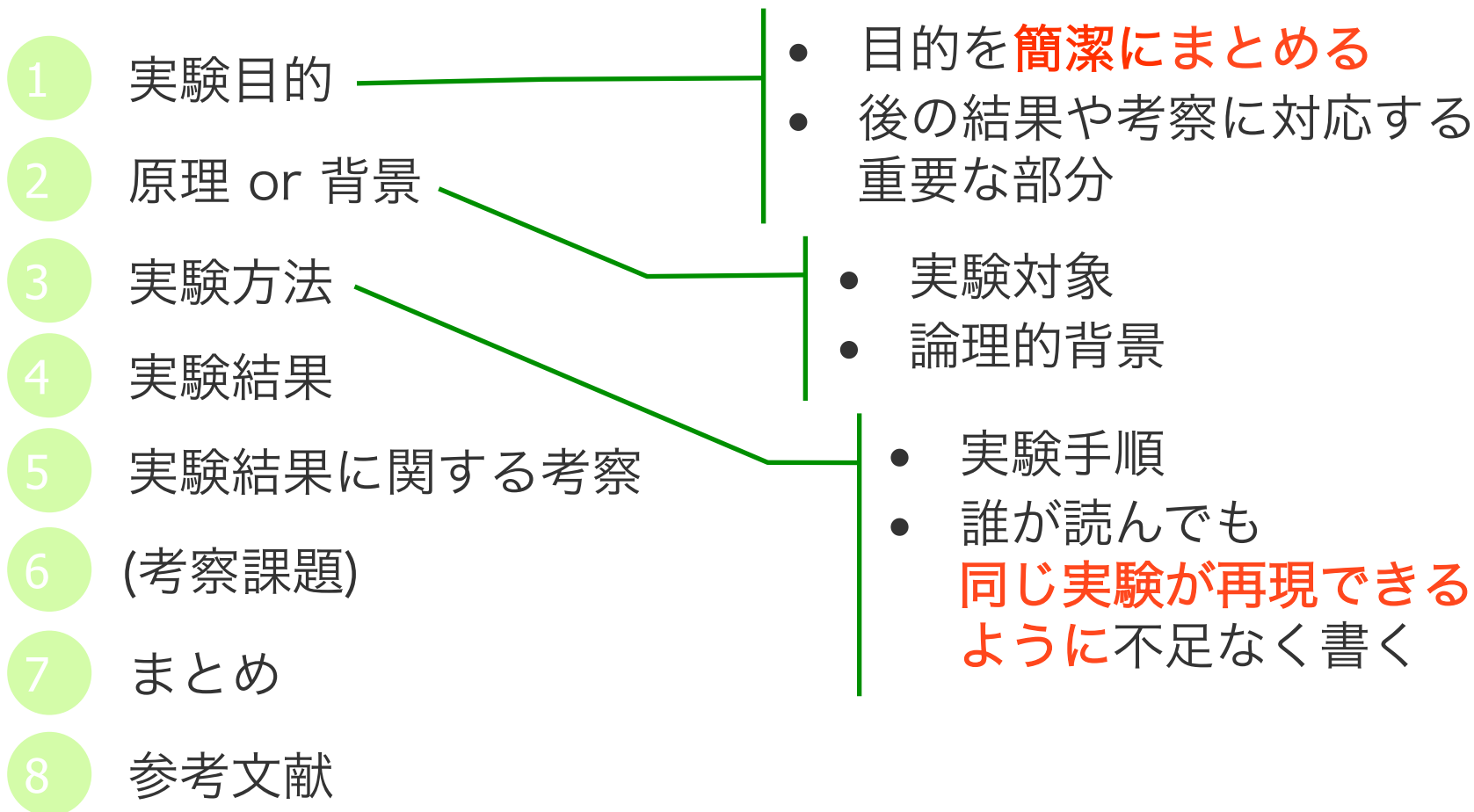
- ❖ レポートには必ず表紙をつける
- ❖ すべてのページ下部にページ番号をつける
- ❖ 文体を「だ・である」体で統一する
  - ✓ 「～です」、「～ます」は用いない
- ❖ 表記のゆれを統一する
  - 「, 」と「、」のどちらかを一貫して用いる
  - 「. 」と「。」のどちらかを一貫して用いる
  - 「行う」と「行なう」、「故に」と「ゆえに」など
- ❖ 教科書やウェブページなどを丸写ししない
  - 必ず自分の言葉でまとめる

# レポートの構成

---

- 1 実験目的
- 2 原理 or 背景
- 3 実験方法
- 4 実験結果
- 5 実験結果に関する考察
- 6 (考察課題)
- 7 まとめ
- 8 参考文献

# それぞれの章の書き方(1/3)



# それぞれの章の書き方(2/3)

1 実験目的

2 原理 or 背景

3 実験方法

4 実験結果

5 実験結果に関する考察

6 (考察課題)

7 まとめ

8 参考文献

- 結果を**グラフ**や**表**で表す
- 結果から読み取れること・分かることを**文章で記述する**

- 何が分かるのか？  
どう解釈できるのか？
- なぜそのような結果になったのか？
- 文献データと比べて不一致があるか？
- 実験の**妥当性**・**信頼性**
- **改善法の提案**や**追加実験の示唆**

# それぞれの章の書き方(3/3)

1 実験目的

2 原理 or 背景

3 実験方法

4 実験結果

5 実験結果に関する考察

6 (考察課題)

7 まとめ

8 参考文献

- 行ったことと  
明らかになったことを  
**簡潔にまとめる**  
(**実験目的**と対応)

- 実験の際に用いた文献
- 文章や図などを  
引用した文献

# 図・表の書式



図 1 楕円と五角形

“表”+表番号+簡潔な説明  
(表のキャプションは表の上)

表 1 図形の辺と頂点

図形	辺の数	頂点の数
三角形	3	3
五角形	5	5
楕円	なし	なし

“図”+図番号+簡潔な説明  
(図のキャプションは図の下)

載せた図や表は、  
本文中で必ず図表番号を  
用いて参照する

(本文)

...を図 1 に示す。また、○○  
を△△した結果を表 1 に示す。  
ここで、...



# グラフの書式

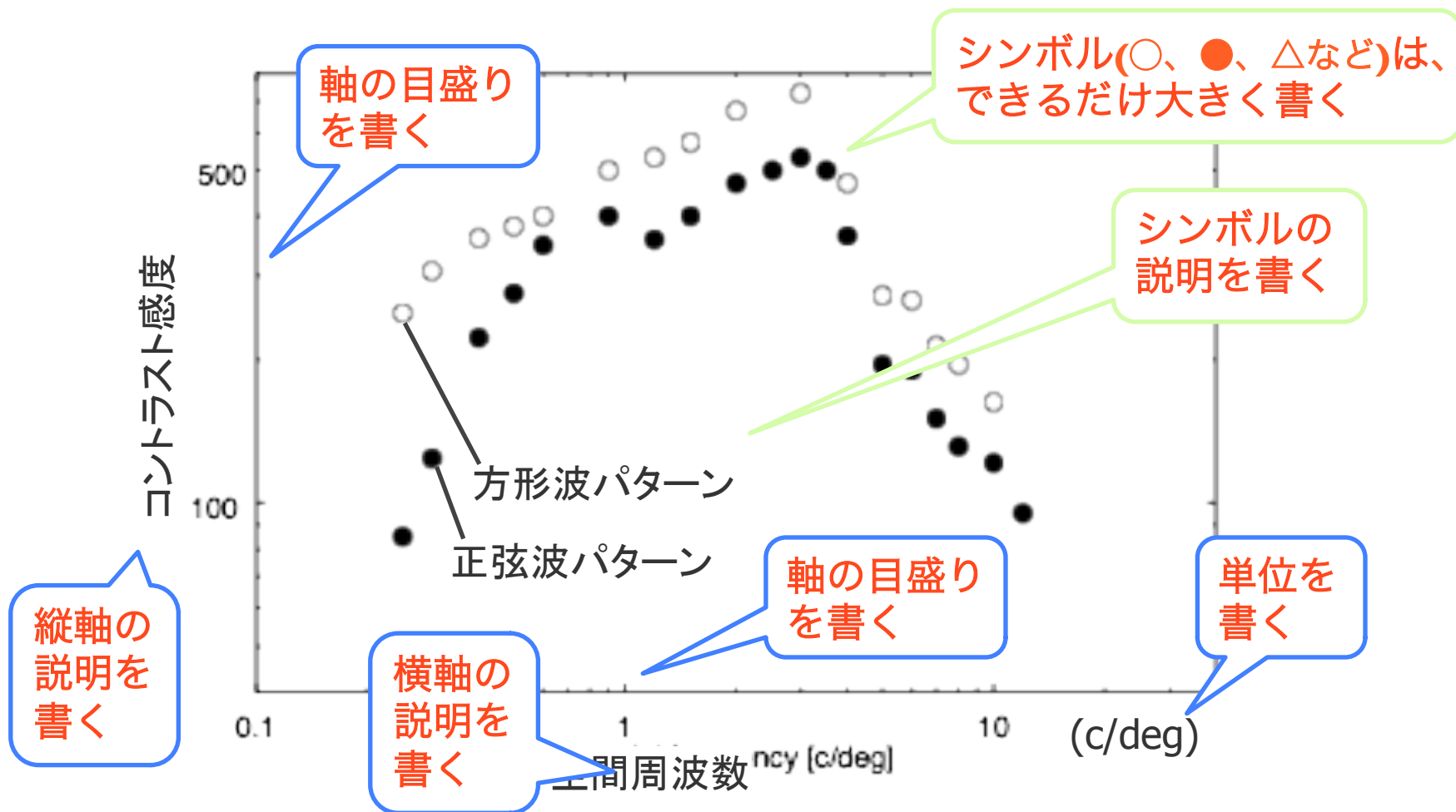


図 9.6: 方形波パターンに対する輝度コントラスト感度関数

# 数式関連の書式

となる。対  $(i, j)$  と対  $(j, i)$  における提示順序の違いによる順序効果の推定量  $\hat{\delta}_{ij}$  は  $\hat{\mu}_{ij}$  と  $-\hat{\mu}_{ji}$  の差の平均値であるから、次式で与えられる、

$$\hat{\delta}_{ij} = \frac{1}{2}(\hat{\mu}_{ij} + \hat{\mu}_{ji}) \quad (5.4)$$

刺激  $i$  と刺激  $j$  の尺度値を  $\alpha_i$ ,  $\alpha_j$  で表すと、対  $(i, j)$  の平均評定点  $\pi_{ij}$  は、この差に相当すると考えられる。すなわち、

$$\pi_{ij} = \alpha_i - \alpha_j \quad (5.5)$$

- ❖ 数式は独立行とし、1行に1つのみ記述する
- ❖ 数式の右側に**通し番号**をつける
- ❖ **変数は斜体フォント**で書く
- ❖ **プログラムの部分は、等幅フォント**で書く

# 参考文献の書式

## ❖ 図書の場合

山梨太郎: 実験レポートの書き方, ○×出版社, pp. 33-34 (2007).

著者名	書名	出版社名	引用したページ	出版年
山梨太郎	実験レポートの書き方	○×出版社	pp. 33-34	2007

## ❖ 論文の場合

山梨太郎, 甲府次郎: 実験レポートの書き方, △□論文誌, Vol. 12, No. 34, pp. 56-78 (2002).

著者名	論文タイトル	論文誌名	巻
山梨太郎, 甲府次郎	実験レポートの書き方	△□論文誌	Vol. 12
号	掲載ページ	出版年	
No. 34	pp. 56-78	2002	

## ❖ ウェブページの場合 (参照する前に、必ず内容の正確さを確かめる!)

山梨太郎: 実験レポートの書き方, <http://△□.jp/rep/>, 2011/4/30アクセス.

作成者	ページタイトル	URL	アクセスした日
山梨太郎	実験レポートの書き方	<a href="http://△□.jp/rep/">http://△□.jp/rep/</a>	2011/4/30